

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	腫瘍制御科学領域 顎口腔腫瘍病態学教育研究分野 氏名 佐竹 杏奈
指導教授氏名	小林 恒
論文審査担当者	主 査 松原 篤 副 査 玉井 佳子 副 査 石橋 恭之
(論文題目) Effects of oral environment on frailty: particular relevance of tongue pressure (口腔内環境がフレイルに与える影響：特に舌圧の関与について)	
(論文審査の要旨) フレイルは加齢に伴う種々な臓器機能変化や恒常性・予備能力低下によって健康障害に対する脆弱性が増加した状態であり、要介護状態へ移行する。一方、口腔機能の低下であるオーラルフレイルはフレイルの前駆症状もしくは加速因子の一つと考えられ、フレイルの早期発見として重要とされている。そこで、口腔内環境、特に舌圧がフレイルに与える影響を明らかにすることを目的として本研究が行われた。 岩木健康増進プロジェクト2016に参加した60歳以上の地域住民467名を対象として、フレイルの有無と、口腔内環境、すなわち現在歯数、歯周ポケット、舌圧ならびにオーラルディアドコキネシス(ODK)、ならびに年齢、性別、喫煙歴、飲酒歴、運動習慣、BMI(体重kg/身長m ²)、筋肉指数(筋肉kg/身長m ²)との相関をロジスティック回帰分析によって検討した。また、舌圧に関連する因子については重回帰分析を用いて同様な解析を行った。 その結果、フレイルの有無に関連する因子として、ODKと筋肉指数、喫煙歴、飲酒歴には有意な相関は認めなかったが、年齢、BMI、現在歯数、舌圧に有意な相関関係を認めた。舌圧低下は、摂食嚥下機能障害を引き起こし、摂食量の減少および低栄養をもたらす。従って、舌圧がオーラルフレイルの指標となることが示唆された。また、歯数の減少はフレイルならびに舌圧低下にも関連しており、フレイルの予防には現在歯を維持することが重要であることが示唆された。 本研究は、フレイルの前駆症状であるオーラルフレイルの早期発見が重要であること、また、歯数を維持することがフレイルの予防に重要であることを示唆するものであり、社会の高齢化が進む現代において社会医学的観点からも価値が高いものであることから学位授与に値する。	
公表雑誌等名	Clinical Interventions in Aging, 2019; 4: 1043-1648